

平成24年12月15日（土）、16日（日）に山口大学医学部附属病院主催緩和ケア研修会がANAクラウンプラザホテルで開催されました。「がん対策基本法」に基づく「がん対策推進基本計画」において、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについて基本的な知識を習得する」ことが目標と掲げられています。この目標達成のため、国が定めた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、統一的なプログラムによる研修会を実施しています。

当院の吉野茂文副腫瘍センター長の開会の挨拶に始まり、2日間で12時間以上の講義、グループ演習、ロールプレイ形式で行われました。研修内容は、がん性疼痛治療法、身体症状に関する緩和ケア、精神症状に関する緩和ケア、コミュニケーション技術等を含む内容でした。当院から、精神科の秋元先生・綿貫先生、麻酔科の平賀先生・松元先生・原田先生、看護部の宮内さん、MSWの高砂さん、また、ペインクリニック山本医院の山本院長をファシリテーターとして迎え、病院の先生方をはじめ様々な診療科から、17名の参加がありました。

グループワークでは、4グループに分かれて疼痛を有するがん症例に関して話し合いが行われ、各グループから治療方針について発表が行われました。その後グループ間で様々な意見交換がなされ、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者の先生方からは「他科の医師の診察やICについて意見を聞いたり、実際の診察を見ることができてとても参考になった」「モルヒネを含むオピオイドに対する基礎知識が修得できてよかった」など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となり無事終了することが出来ました。

《研修会風景》

